

10人のリーダーの価値観を探るインタビュー

糸山 智栄さん

岡山県学童保育連絡協議会 会長



プロフィール

氏名: 糸山 智栄 (いとやま ちえ)

■所属:

- 岡山県学童保育連絡協議会 会長
- 特定非営利活動法人フードバンク岡山 理事長
- 特定非営利活動法人オレンジハート 理事長
- 株式会社えくぼ 代表取締役

■専門分野・得意なこと:

あれこれに首を突っ込む。
調子よくスタートするが、継続が苦手なのでうまく誰かにやってもらう。
グラフィックレコーディング修業中、Facebook活用

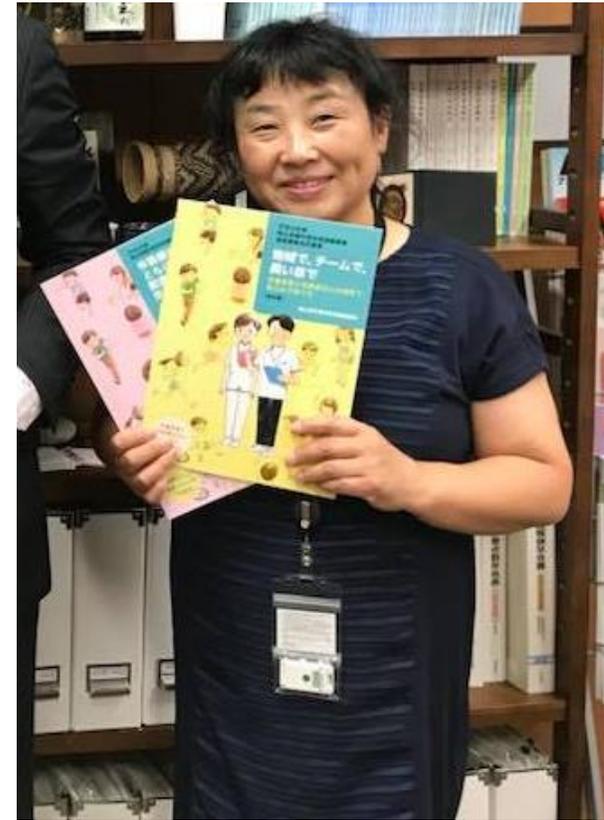


プロフィール

■略歴:

- 1987年3月 岡山大学教育学部卒業
- 1987年4月 岡山県子ども劇場協議会(現NPO法人子ども劇場岡山県センター)就職 (2001年12月まで)
- 1990年3月 結婚、出産、学童保育に出会い、働きながら保護者として活動する。
- 2001年4月 岡山県学童保育連絡協議会事務局長 (2010年3月まで、2014年4月から会長)
- 2001年4月 ハローワークの紹介で、職業訓練校に行き、ヘルパー資格を取得。(半年)
- 2002年10月 登録ヘルパーとして働き始める。(2004年まで)
- 2005年1月 NPO法人さんかくナビ設立、訪問介護事業所を開始。
- 2010年11月 株式会社設立、2011年2月事業所分離、フードバンク活動開始、中小企業家同友会入会
- 2011年7月 NPO法人オレンジハート設立 理事長
- 2012年11月 NPO法人フードバンク岡山設立 理事長
- 2014年 (学童)「学童プレハブー6℃作戦」実施
- 2016年 (学童)「作業療法士×学童保育」事業を発案、開始





アメリカの学校で専属の作業療法士が配置されていることを知り、日本の学童保育の現場でも応用できるのではないかとひらめいたことをきっかけとして、2016年度から学童保育と作業療法士の連携事業を開始されました。特に発達障害児や特性のある子どもたちへの対応において、現場の指導員や専門家の評価が高かったことなどから関係者間で急速に評判が広がり、2019年末時点で全国37都道府県で講座や訪問コンサルを実施されています。なお、糸山さんはそのほかにも子どもや社会的に弱い立場にある人たちを支える複数の組織の代表を務められています。

価値観

1. 隙間をねらう。
2. おもしろがれる環境に身を置く。
3. 戦略的に目立つ。





価値観を表すエピソード

1. 隙間をねらう。

糸山さんが育った小学校は子どもが少なかったためか、ひとりひとりの個性がとても尊重されていたそうです。



先生にも恵まれ、他と異なる発想や行動が制限されることはまったくなかったそうです。

そうして培われた発想力や行動力は大人になってからも糸山さんの大きな武器になっており、



あえて他人とは異なるポイント・タイミングをねらい、成功につながった経験がたくさんあるそうです。



行政への協働提案は直接の担当部署でなく、「関係がある」部署をねらうこともあります！

「隙間」をねらうメリットは他者との競争を避けるだけでなく、当たれば伸びしろが大きいことです。



今後、糸山さんがどのような隙間をねらわれるのかご注目ください！？



価値観を表すエピソード

2. おもしろがれる環境に身を置く。

<p>糸山さんが大学を卒業する頃、世の中はバブル全盛期…</p>  <p>就職先はいくらでも選べる状況でしたが、糸山さんが選んだのはNPOでした。</p>	<p>その選択は前述のとおり「隙間」だったこともありましたが、</p> <div data-bbox="777 792 1223 971" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <h3>事務局長</h3> </div> <p>それ以上に「事務局長」という役職が約束されていたことに強く惹かれたそうです。</p>	<p>どのような業種・業界でも新人は数年の下積みを経験するものですが、</p>  <p>はじめから好きなことができそうな環境を選んだということでした。</p>	<p>現在でも糸山さんは複数の組織の代表を務めていますが、副代表を務めることはないそうです。</p>  <p>おもしろいこと、やりたいことを追求・実行できる環境に身を置くことが自分の能力を最大限に発揮する秘訣なのかもしれません。</p>
---	---	---	---



価値観を表すエピソード

3. 戦略的に目立つ。

糸山さんが力を入れておられる「学童×作業療法士」の取組は全国的な広がりを見せていますが、



当然ながら勝手に広がっていったわけではありません。

「成果・実績」が挙げられていることが大前提となりますが、それに加えて、



関係者の評判や全国的な盛り上がりを上手に発信して効果的なマーケティングを実現されていたと考えられます。



ちなみに後述の「フェイスブック」や「グラフィックコーディング」も糸山さんの強力なマーケティングツールになっています。

できるだけ自然かつ魅力的に目立つことは決して簡単なことではありませんが…



自らのキャラクターとツールを駆使する糸山さんから学ぶことはたくさんありそうです。

今力を入れていること

「フェイスブック」

全国各地のおもしろい人とつながることができた。
現在でもいろいろ試しながら使っている。

「グラフィックレコーディング※」

自分は意外なほどスムーズに習得できた。
情報を「絵」や「図」で整理している人に向いているかもしれない。

※議論や対話などを絵や図などで可視化して記録する手法。直感的に理解できるため、より効率的に共通認識をはかることができます。



糸山さんが作成された
グラフィックレコーディング



次世代のリーダーへ提供できるもの

「場を和ませます」

論理的な話よりは楽しい話が得意です。
会議をまとめたり、交渉事を成功に導くためには
参加者が「おもしろい」と思える雰囲気を意識的につくったほうがよい。
そのために「おせっかいおばさん」キャラクターを使ってほしい。
場を盛り上げたうえで「大丈夫」と言ってあげられます。



次世代のリーダーへのメッセージ

「セオリーに縛られすぎないで」

例えば、「会議」に縛られない。
会議に縛られすぎると意思決定のスピードが落ちてしまう。
また、企画が平準化され「中の下」の品質になってしまう。
例えば、「PDCA」に縛られない。
少なくとも私はPDCAを意識していない。
これらは極端な例かもしれないが
定石ではないことや他人と異なることを恐れないでほしい。

